

平成25年(2013年)3月期 第2四半期 決算説明会

2012年11月22日

JASDAQ:3423

 株式会社 **エスイー**

目次

- I. 平成25年3月期 第2四半期業績
および通期業績予想
- II. 平成25年3月期 第2四半期
セグメント別事業報告
- III. SECグループの今後の戦略



Ⅰ．平成25年3月期 第2四半期業績 および 通期業績予想

■ 損益計算書(連結)

(単位:百万円)

	平成24年3月期 第2四半期累計 実績	平成25年3月期 第2四半期累計 実績	前年同四半期比	
売上高	6,538	7,343	805	12.3%
営業利益	△169	151	321	—
経常利益	△159	141	301	—
四半期純利益	△56	59	115	—
一株当たり四半期純利益	△7円31銭	7円80銭	15円11銭	

売上高

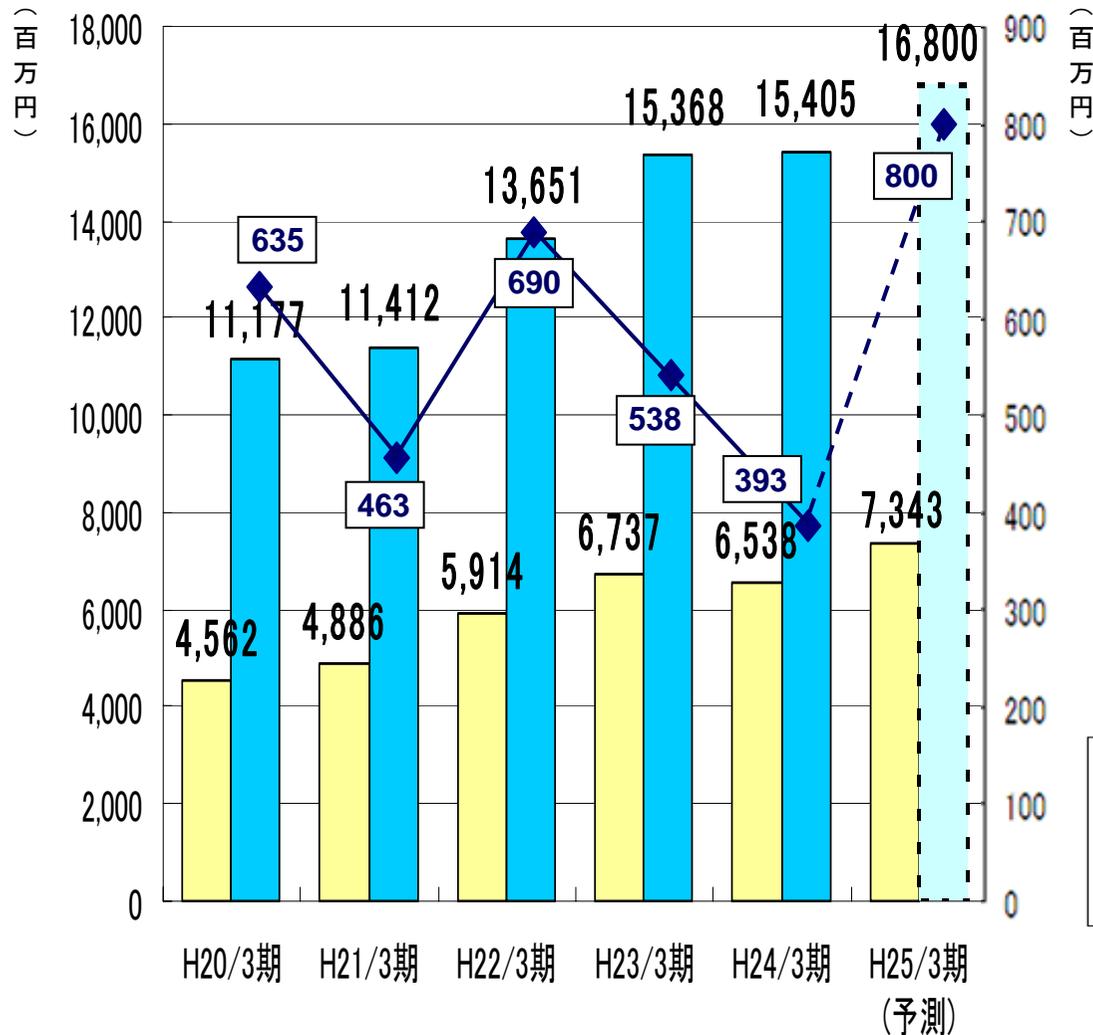
- 成長市場としての「補修・補強市場」への積極的な事業展開。
- 海外(ベトナム)建設市場での事業展開(ハロン~ハイフォン道路Bach Dang橋整備調査業務)。
- PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ = 公民連携)への積極的な取組。
- 東日本大震災からの復興に呼応するグループの事業展開。
- 株式会社仲田建設(新商号:エスイーリペア株式会社)を子会社化し、補修・補強工事業を中心に新規分野の事業拡大。

利益

- 「建設用資機材の製造・販売事業」において利益率の比較的高い工場製品の販売が順調に推移。
- 同じく、「建設用資機材の製造・販売事業」における製造部門の生産効率向上や販売管理費のコスト圧縮にも注力。
- 「建築用資材の製造・販売事業」における震災復旧・復興需要の取り込みや首都圏市場での受注が順調に推移。

■ 売上・経常利益の推移

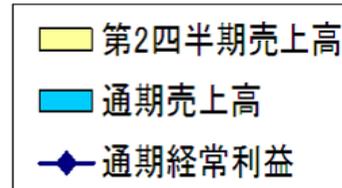
(連結) 売上高・経常利益の推移(平成20年3月期～平成25年3月期(予))



●平成24年3月期は、予算削減や激しい価格競争に加え、震災による公共事業費5%執行保留等の影響を受け、非常に厳しい状況であった。

●当第2四半期連結累計期間においては、上記保留分について事業執行の回復もあり、また工場製品の販売が順調に推移したことや、震災復旧・復興需要の取り込み等により、前年同期比で増収増益を達成。利益も大きく回復し、業績予想修正を開示。

●平成25年3月期の通期見通しについては、前期に比べて、引き続き順調に推移するものと予想。



■セグメント別売上高

(単位:百万円)

区 分		平成24年3月期 第2四半期累計 実績		平成25年3月期 第2四半期累計 実績		前年同四半期比	
		売上高	構成比	売上高	構成比		
建設用資機材の 製造・販売	環境防災分野	3,447	-	3,286	-	△161	△4.7%
	橋梁構造分野	733		910		177	24.2%
	その他	50		83		32	64.6%
	小計	4,231	64.7%	4,280	58.3%	49	1.2%
建築用資材の製造・販売		2,099	32.1%	2,355	32.1%	255	12.2%
建設コンサルタント		169	2.6%	276	3.8%	107	63.3%
補修・補強工事		32	0.5%	426	5.8%	394	1,219.7%
その他		4	0.1%	3	0.1%	△0	△13.9%
合 計		6,538	100.0%	7,343	100.0%	805	12.3%

- 売上高は百万円未満を端数処理(切捨て)しておりますので、内訳数値と合計値が一致しない場合があります。
- 第1四半期連結会計期間より、新しい報告セグメントに変更しております。

■ 貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

	平成24年3月期末	平成25年3月期 第2四半期末	前期末比較	
流動資産	12,908	11,415	△1,493	△11.6%
固定資産	5,283	5,433	149	2.8%
資産 合計	18,192	16,848	△1,344	△7.4%
流動負債	7,414	6,617	△797	△10.8%
固定負債	4,505	4,062	△442	△9.8%
負債 合計	11,920	10,680	△1,239	△10.4%
純資産 合計	6,272	6,167	△104	△1.7%
負債・純資産 合計	18,192	16,848	△1,344	△7.4%

(平成24年3月期末)

(平成25年3月期 第2四半期末)

■ 自己資本比率

34.5%

36.6%

■ 一株当たり純資産

816円43銭

803円36銭

■CF計算書(連結)

(単位:百万円)

	平成24年3月期 第2四半期累計 実績	平成25年3月期 第2四半期累計 実績	前年同四半期比	
営業活動によるキャッシュ・フロー	317	667	350	110.5%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△72	△91	△18	24.8%
財務活動によるキャッシュ・フロー	△189	△885	△695	367.8%
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△0	7	△99.4%
現金及び現金同等物 増減額	48	△308	△356	—
現金及び現金同等物 期首残高	3,206	3,632	425	13.3%
現金及び現金同等物 四半期末残高	3,254	3,324	69	2.1%

- 【営業活動によるCF】増加要因:税金等調整前四半期純利益128百万円、売上債権の減少額1,627百万円等
減少要因:仕入債務の減少額742百万円、法人税等の支払額59百万円等
- 【投資活動によるCF】減少要因:有形固定資産取得による支出64百万円、投資有価証券取得による支出42百万円等
増加要因:保険積立金解約による収入39百万円、連結範囲の変更を伴う子会社株式取得による収入37百万円等
- 【財務活動によるCF】増加要因:長期借入による収入200百万円
減少要因:短期借入金の純減額100百万円、長期借入の返済による支出687百万円、社債の償還による支出127百万円、親会社による配当金の支払153百万円等

■平成25年3月期 業績予想(連結)

(単位:百万円)

	平成24年3月期 通期 実績	平成25年3月期 通期 予測	前年同期比	
売上高	15,405	16,800	1,394	9.1%
営業利益	371	776	404	108.7%
経常利益	393	800	406	103.2%
当期純利益	255	471	215	84.1%

●平成25年3月期 期末配当金 **1株当たり 15円** (予定)

平成25年3月期の配当予想金額は当期の連結業績動向が前期に比べ順調に推移していること、および新株式発行に伴う発行済株式総数の予想増加分を踏まえ、増資実施前の50%増に当たる1株当たり15円に修正させていただきました。

<一株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移(連結)>

	平成20.3期	平成21.3期	平成22.3期	平成23.3期	平成24.3期	平成25.3期 (予測)
一株当たり 当期純利益(円)	50.17	31.77	51.68	41.49	33.33	※ 61.36
一株当たり 配当金(円)	20	20	20	20	20	15
配当性向(%)	39.9%	63.0%	38.7%	48.2%	60.0%	—

※ 平成25年3月期の一株当たり当期純利益は平成24年10月22日付で公表いたしました株主割当増資による新株式の増加予定株式数は考慮しておりません。

■平成24年10月22日付開示情報について 株式会社 エスイー

◆平成24年10月22日開示書類

「株主割当による新株式発行に関するお知らせ」

「業績予想の修正に関するお知らせ」

「配当予想の修正に関するお知らせ」

実施目的

- ・研究開発資金の調達
- ・株主様への利益還元
- ・新しい開発計画への参画

→ 株主様との関係を深め、事業発展を目指す

① 株主割当による新株発行について

目的： 超高引張強度コンクリートを用いた道路橋用プレキャスト床版の開発

方法： 平成24年11月27日の最終株主名簿に記載または記録された株主様を対象に、
1株当たり25円にて所有株式と1:1の割合で新株式を割当

	増資前 (平成24年9月末時点)	今回の増資による増加分 (予定)	増資後 (予定)
株式数	8,350,000 株 (自己株式含む)	7,675,782 株	16,025,782 株
資本額	1,046,100,000 円	191,894,550 円	1,237,994,550 円

※株主様からの新株式発行への申込状況によっては、予定する株式数および資本額に満たない場合がございます。

■平成24年10月22日付開示情報について 株式会社 エスイー

② 業績予想の修正について

・平成25年3月期 第2四半期(累計)の利益面において、当初の業績予想より、**30%以上増加**が見込まれたことから、平成24年10月22日に開示。

・修正の理由: **株式会社エスイー**

- －利益率が比較的高い工場製品の販売が順調に推移
- －製造部門の生産効率向上や販売管理費のコスト圧縮

エスイーA&K株式会社

- －震災復旧・復興需要の取り込みや首都圏市場での受注が堅調に推移

③ 配当予想の修正について

・上記①および②を鑑み、**平成25年3月期の配当予想は15円**といたしました。

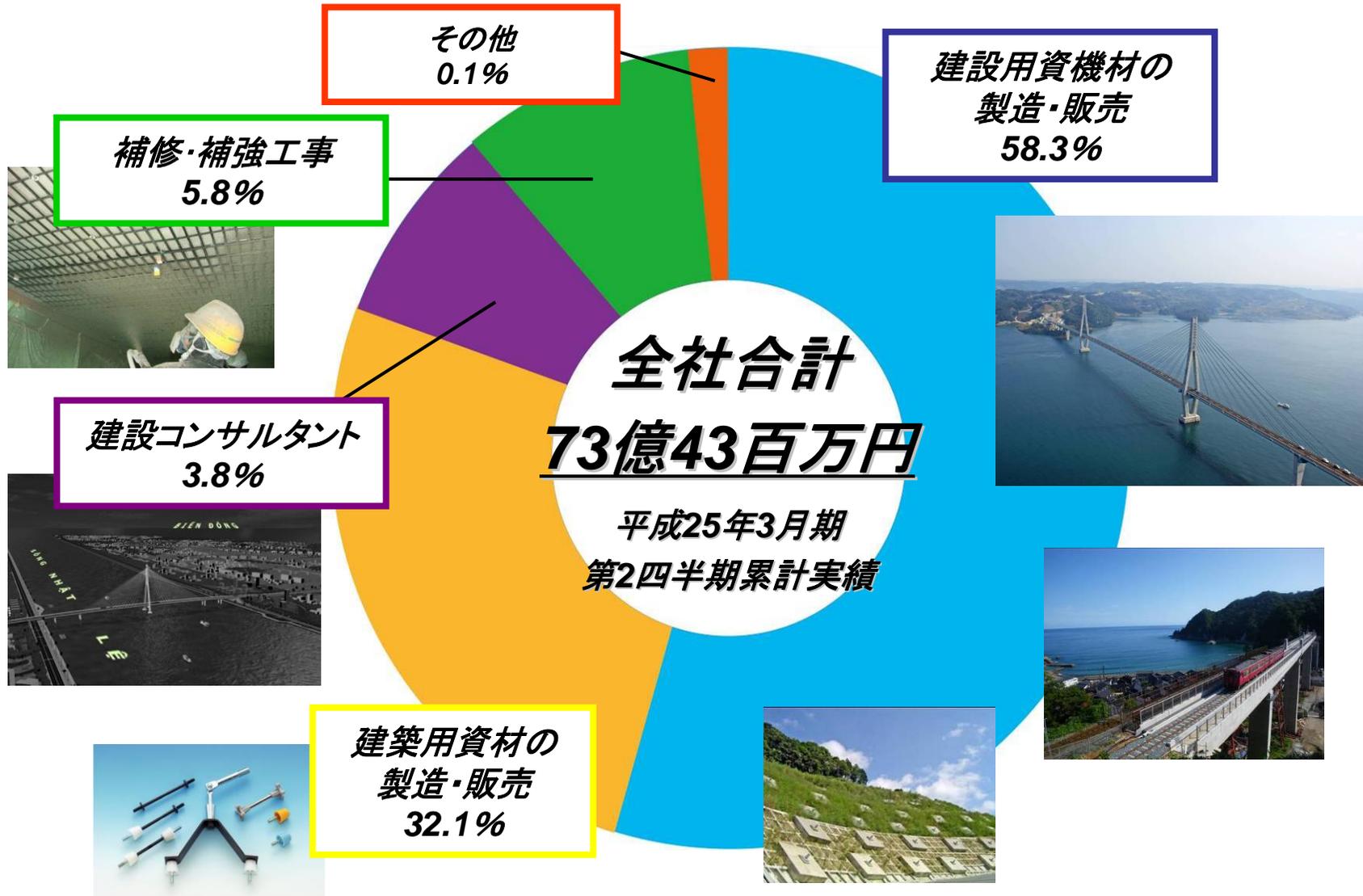
(増資前に) 1,000株を 保有している 場合		従来	配当予想修正
	1株当たり配当金	20円	15円
	所有株式数	1,000株	2,000株
	受け取り配当金	20,000円	30,000円

従来の1.5倍



II. 平成25年3月期 第2四半期 セグメント別事業報告

■セグメント別 売上構成



■ 建設用資機材の製造・販売事業

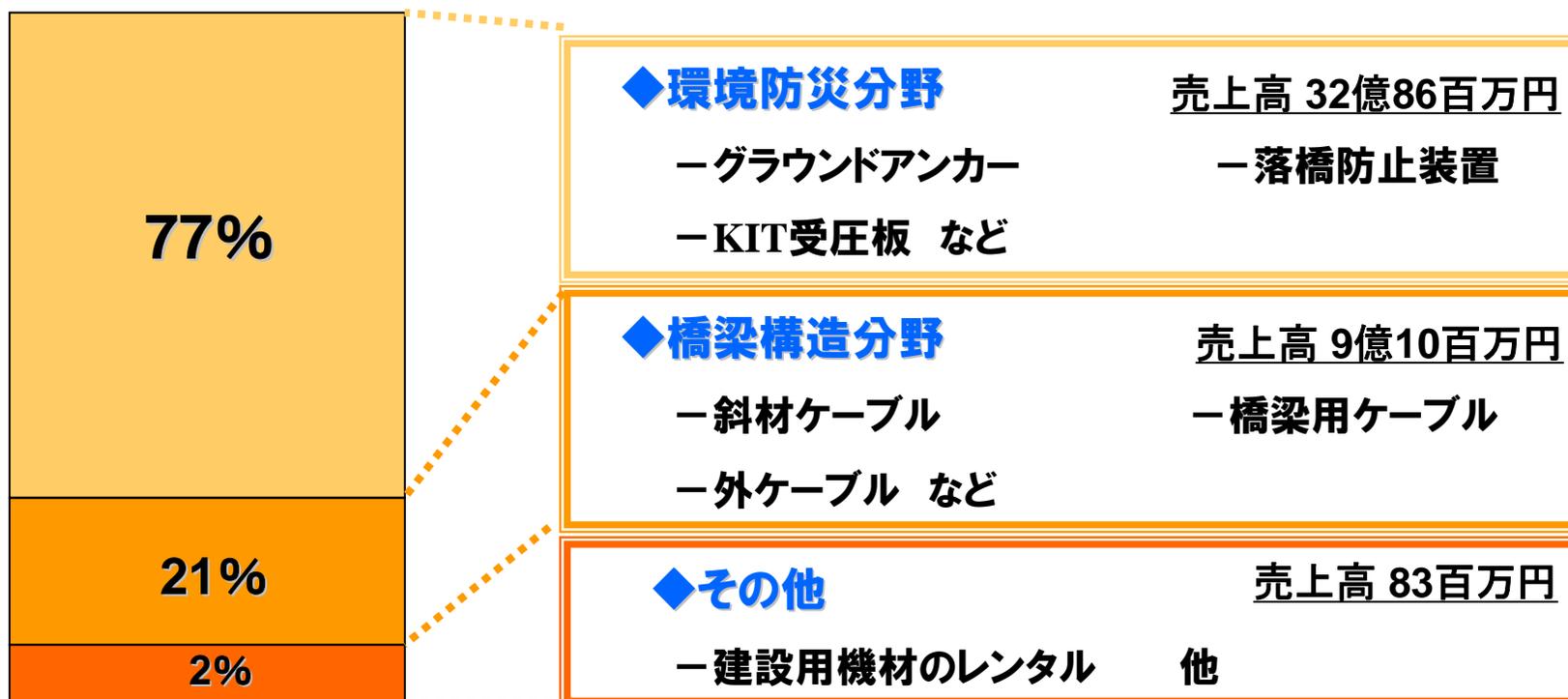
◆ 建設用資機材の製造・販売事業（株式会社エスイー）

売上高 42億80百万円(前年同期比1.2%増)

－ 営業利益 1億50百万円(前年同期は1億18百万円の営業損失)。

－ 利益率の比較的高い工場製品の販売が順調に推移、製造部門の生産効率の向上や販売管理費のコスト圧縮などによる利益の増加。

〔各分野の内訳〕



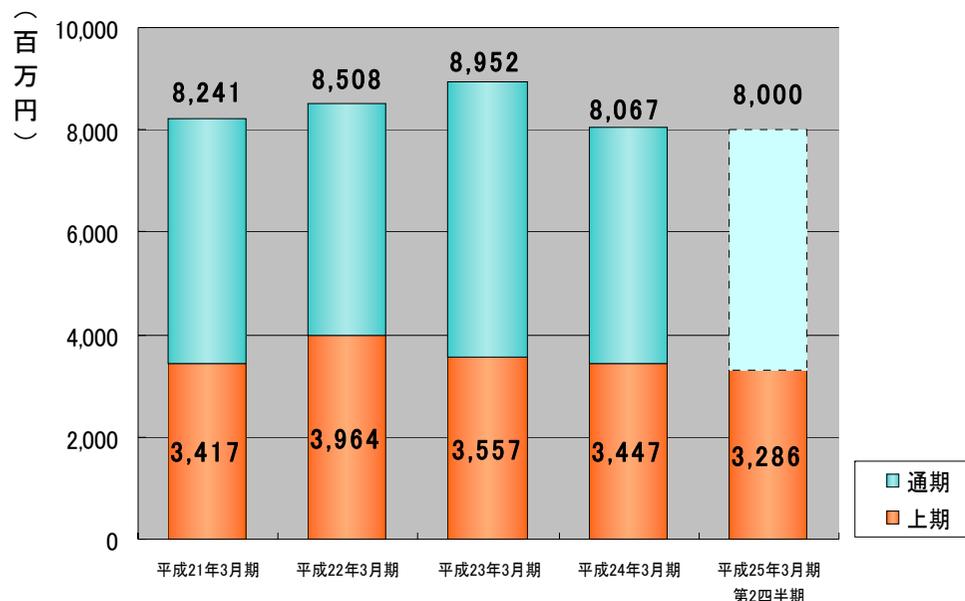
建設用資機材の製造・販売事業

◆ 環境防災分野

売上高 32億86百万円(前年同期比4.7%減)

- 東日本大震災の発生に起因した公共事業費5%執行保留による影響が、当期においては事業執行の回復が図られた。
- 主力製品である『アンカー』での災害関連物件の納入が第3四半期以降へずれ込んだ。

<環境防災分野の売上推移>



- ◆ アンカー
- ◆ 落橋防止装置
- ◆ KIT受圧板 など

災害復興におけるアンカー利用(岩手県船越漁港)



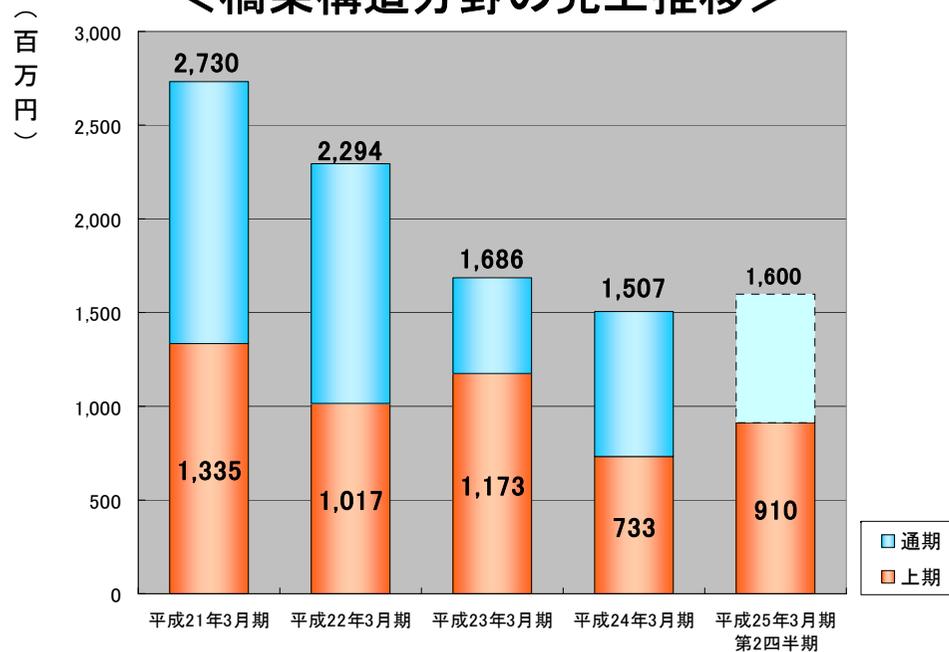
■ 建設用資機材の製造・販売事業

◆ 橋梁構造分野

売上高 9億10百万円(前年同期比24.2%増)

- 橋梁に使用される『斜材ケーブル』、主として補修・補強工事に使用される『外ケーブル』などの売上高が増加。

＜橋梁構造分野の売上推移＞



- ◆ PC用ケーブル
- ◆ 外ケーブル
- ◆ 斜材 など



■ 建築用資材の製造・販売事業

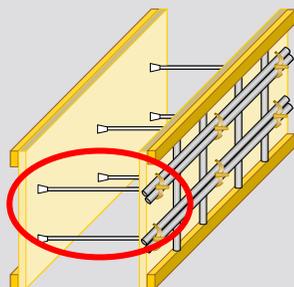
◆ 建築用資材の製造・販売事業（エスイーA&K株式会社）

売上高 23億55百万円(前年同期比12.2%増)

- 営業利益1億43百万円(前年同期比16.0%増)となり、第2四半期累計期間において2期連続の増収増益。
- 東北市場での復旧・復興需要の取り込みが堅調に推移。
- 首都圏市場でも旺盛なマンション需要を中心に、中小案件をきめ細かく取り込むことができた。

● 「セパレーター」→ 仮設型枠工事に使用

【指標】首都圏新設マンション着工数

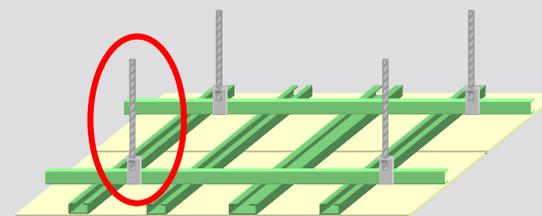


＜セパレーター＞
平行する型枠の間隔を一定に保つための金物



● 「吊ボルト」→ 吊り天井に使用

【指標】非住居着工棟数（民間）



＜吊りボルト＞
天井下地などを吊り下げるために用いられるボルト

両指標とも回復傾向 + 復旧・復興需要の取り込み

■ 建設コンサルタント事業

◆ 建設コンサルタント事業（株式会社アンジェロセック）

売上高 2億76百万円(前年同期比63.3%増)

- － 営業損失は71百万円(前年同期は104百万円の営業損失)。
- － 外務省NGO審査案件の継続受注。
- － 環境省「H24年度新メカニズムの構築に向けたアフリカ地域におけるMRV体制構築支援事業」の継続受注。

● 事業分野・顧客・案件実施国の新規開拓、多様化にも注力

Project ① 環境省案件

日本政府提案のアフリカにおける
「温暖化効果ガス削減のための新メカニズム」
体制構築支援事業

◆ 国連主催の会議やCOP17へも参加し調査を実施



Project ②

タジキスタン 太陽光導入計画

タジキスタン共和国クリーン
エネルギー計画 準備調査



Project ③

カーボヴェルデ 淡水事業

カーボヴェルデ国上水道シス
テム整備事業 準備調査



■ 補修・補強工事業

◆ 補修・補強工事業（エスイーリペア 株式会社）

- 売上高 4億26百万円(前年同期は32百万円の売上高)
- ー 営業損失34百万円(前年同期は28百万円の営業損失)。
- ー 第1四半期連結会計期間に(株)仲田建設を子会社化
→ 事業規模が拡大し、橋梁・トンネル等での補修・補強工事実績を蓄積。
- ー 競争の激化や工事単価の下落など市場環境は引き続き厳しい状況。

- 2012年5月1日株式会社仲田建設を子会社化
→ リペア・テクノ事業部(エスイー)と統合

新商号：**エスイーリペア 株式会社**

- 橋梁・トンネル等のコンクリート構造物の
補修・補強を専門とする**施工会社**
- 九州地域を中心とした事業展開
→ 将来的には全国展開を目指す

【概要】 株式会社 仲田建設

- ・本社所在地:福岡県福岡市南区
- ・設立:昭和55年 ・資本金:30百万円
- ◇橋梁やトンネルの補修・補強に強みのある施工会社
- ◇九州における30年以上の実績と経歴、広い地場ネットワーク
- ◇多数の工法を有しており、調査・設計部門も有するなど幅広い提案が可能



III. SECグループの今後の戦略

【平成25年3月期第2四半期 建設業界をとりまく市場環境】

● 公共事業費の削減

- －平成24年度公共事業関係費は**4兆8,137億円(対前年比△3.2%)**
公共事業関係費は平成21年からの3年間で31.9%の急激な減少。

● 震災復旧・復興需要

- －国土交通省は、平成24年度の関係予算概算要求概要において、被災地の復興などを強かに推進。
“震災復旧・復興対策費として1兆1,098億円を盛り込む” とするなど。
Cf.) 国土強靱化基本法案(2012年6月)

● 自然災害・異常気象への対策需要

- －首都直下型地震や南海・東南海地震などへの対策の急務。
Cf.) 南海トラフ巨大地震対策特別措置法案(2012年6月)、首都直下地震対策特別措置法案(同左)
- －平成24年7月九州北部豪雨の発生や台風の影響 など

● 老朽化した社会インフラの大量更新

- －1970年代の高度成長期に建設された社会インフラが、更新時期を一気に迎えることで、財政の圧迫による十分な維持管理の不備が懸念される。

■ エスイーグループの成長戦略

◆ 成長戦略の基本

(1) 既存事業の安定

- (株)エスイーの充実
- エスイーA&K(株)の成長
- (株)アンジェロセックの拡充

(2) 今後の成長戦略

- ベトナムでのPPP事業提案
- 補修・補強事業(エスイーリペア株式会社)
- 新製品開発：超高引張強度コンクリートの実用化

■ ベトナムでのPPP事業提案

◆ ベトナム PPP (BOT方式) による事業提案

ベトナム子会社であるVJECを中心に、エスイーおよびアンジェロセックで連携して事業提案を実施。

● 『バックダン橋』整備 (PPPプロジェクトの提案) およびダンニャマック地区開発

- ・ハロンとハイフォンを結ぶ高速道路25kmのうち、橋梁部分5kmの建設工事およびダンニャマック地区の土地開発案件。
- ・2012年7月 本件について、経済産業省より「平成24年度インフラ・システム輸出促進調査等事業(民活インフラ案件)形成等調査」が採択された。



<ベトナム・クアンニン省との実施協力のための覚書調印式の様子>

<上記以外に進行中のベトナム案件>

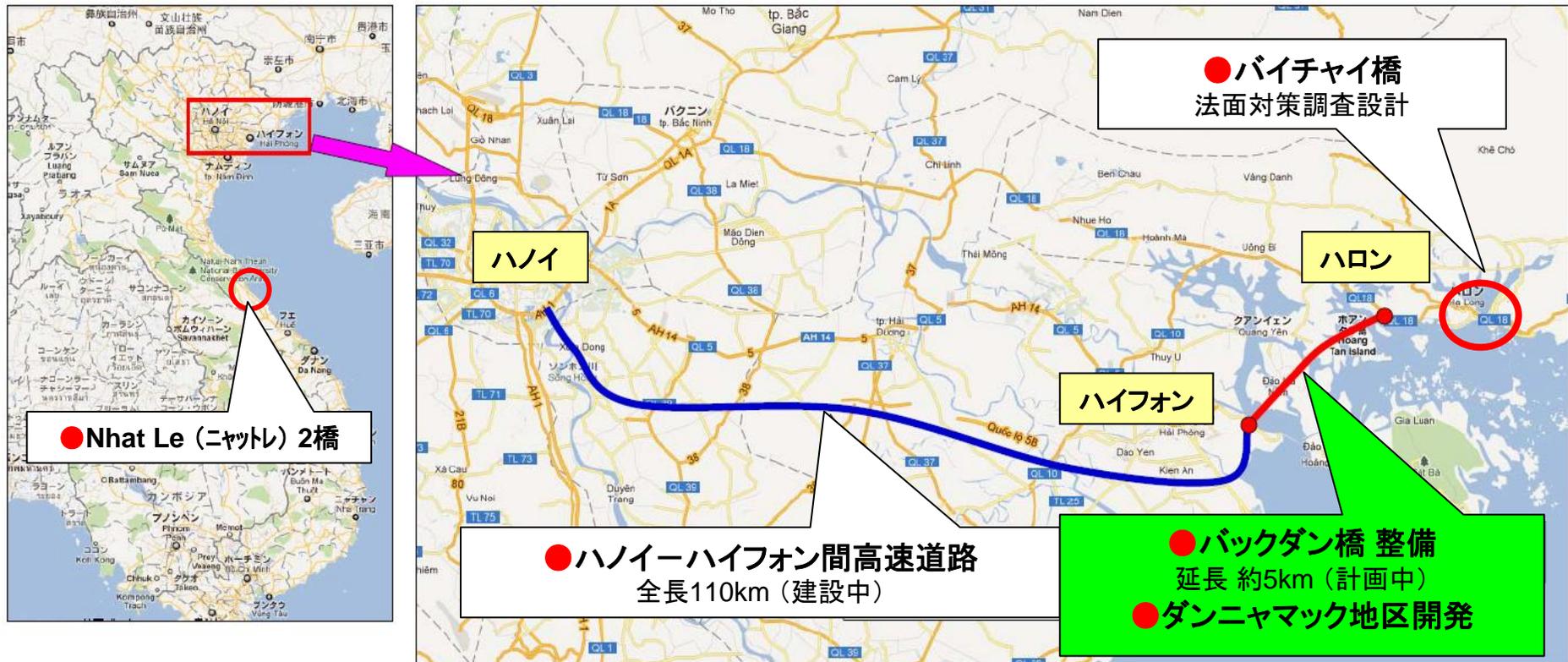
- 『ハノイーハイフォン間高速道路 施工管理業務』
ー 全長110kmの施工管理 (建設は中国、韓国企業)
- 『Nhat Le (ニャットレ) 2橋デザインチェック業務』
- 『Bai Chay (バイチャイ) 橋 法面対策調査設計業務』
ー JICAより受注
ー IDI (国際建設技術協会) との連携



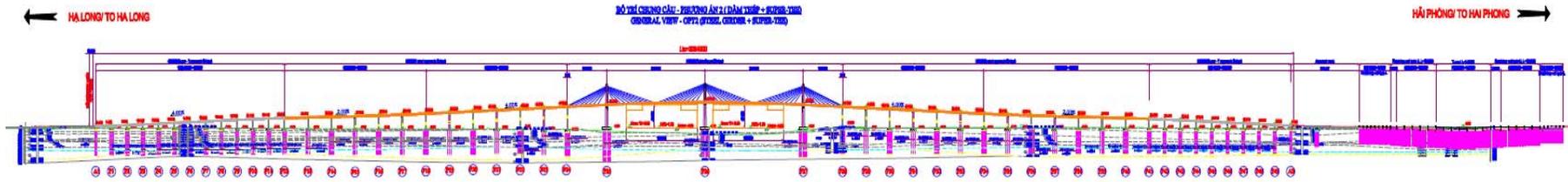
<Nhat Le (ニャットレ) 2橋>

■ 地理的な位置関係

◆ ベトナムにおけるプロジェクト現場



■ Bach Dang橋およびアプローチ道路



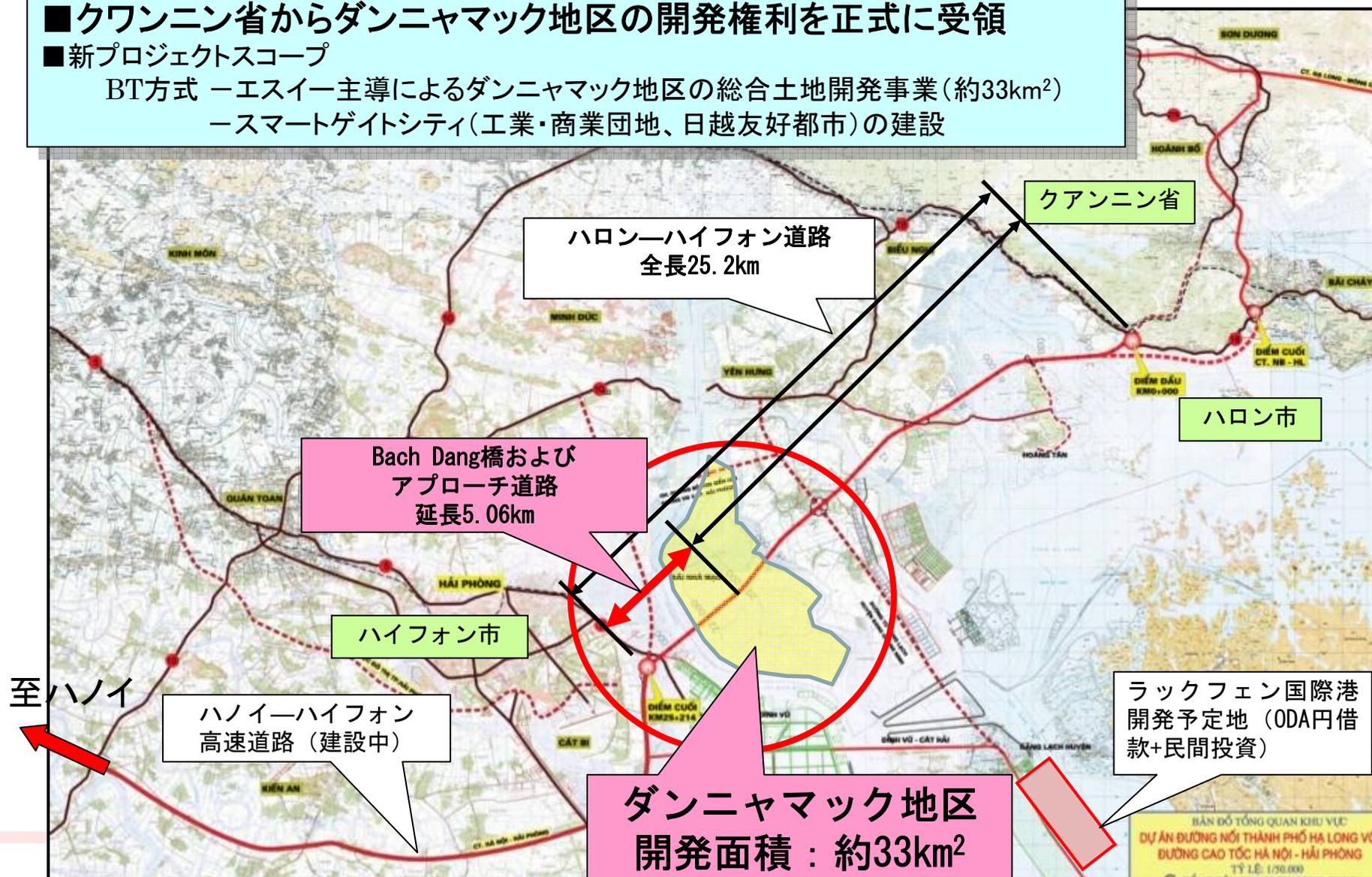
■ ダンニャマック地区開発の概要

■クワンニン省からダンニャマック地区の開発権利を正式に受領

■新プロジェクトスコープ

BT方式 – エスイー主導によるダンニャマック地区の総合土地開発事業(約33km²)

– スマートゲイトシティ(工業・商業団地、日越友好都市)の建設



■ 補修・補強事業

◆ コンクリート構造物の補修・補強 (エスイーリペア株式会社)

● M&Aの実施 (技術・人材・実績の継承)

- ・ (株)仲田建設の子会社化
 - － 32年の実績と経歴
 - － 補修補強の施工に特化した技術力

リペア・テクノ事業部と統合し、
エスイーリペア株式会社を設立



・ 事業分野

： 橋梁、トンネル、海洋構造物、栈橋、揚油施設、放水路のほか、プラントの基礎分野など

・ 技術提案型の事業展開

： 調査・設計部門も兼ね備えており、工法等の検討など幅広く多様な提案が可能

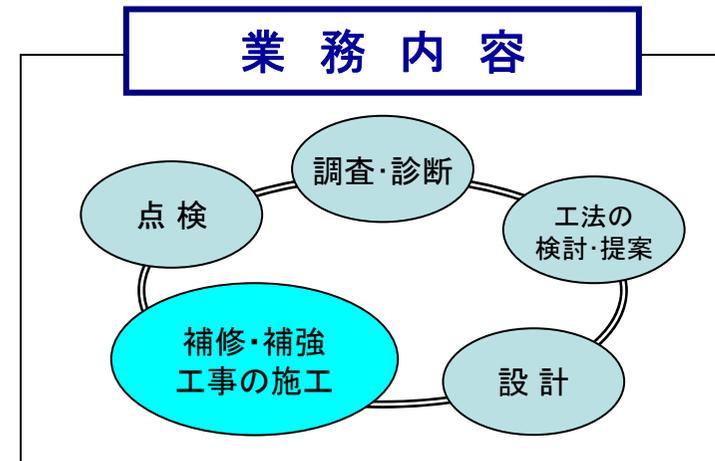
老朽化に対する補修

橋梁、トンネルなど老朽化する社会インフラの増加への対応

耐震補強

首都直下型地震や南海・東南海地震などを想定した基幹交通網の地震対策

業務内容



■ 補修・補強事業

◆ コンクリート構造物の補修・補強 (エスイーリペア株式会社)

● 老朽化した交通網の整備、基幹道路の耐震補強の需要増加



- ・首都高の大規模改修においては市場規模1兆円と言われるなど、老朽化した交通網の整備の必要性が注目される。これらに対し、非破壊検査技術により老朽化を早期に発見し、老朽化の進行前に補修を行うことを提案していく。
- ・また、首都直下型地震や南海・東南海地震等に備えて、耐震性に優れた整備が進められている。

・ 11月1日 東日本、中日本、西日本高速道路(株) 3社による

「長期保全等検討委員会」の設置を発表

(永続的な高速道路機能の維持に向けて)

- ◇ 大規模更新・修繕
- ◇ 予防保全
- ◇ 機能強化

● 高速道路の老朽化対策について合同で検討

3社が管理する高速道路は、1960年代の高度経済成長期から建設が始まり、橋やトンネル、のり面などの老朽化が進んでいる。

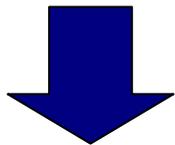
中日本高速が管理する道路では全長約1900キロのうち、約6割が建設後30年以上経過している。(2012年11月2日 読売新聞より抜粋)

● 構造物用の超高引張強度コンクリートの開発 → 補修・補強分野への応用

■ 超高引張強度コンクリートの研究開発

●プレキャスト床版の市場性

- ・ 道路や橋梁等の床版は、老朽化の影響を大きく受けており、取替え対応が急務となっている。
- ・ プレキャスト製品であるため、取替え工事における工期の短縮が図れ、工事費の削減にもつながる。



超高引張強度コンクリートの活用

●技術的特徴

- ・ コンクリートの超高強度化(特許出願済み)
- ・ **炭素繊維**とセメントペーストとの親和性の改善

●性能的特長とメリット

- ・ 鉄筋やPC鋼材を使用しないため、鋼材腐食がない → **塩害防止に有効**
- ・ 引張強度に強い → **ひび割れがしづらい**

長期的な
使用が可能

道路橋用プレキャスト床版への製品化を目指す

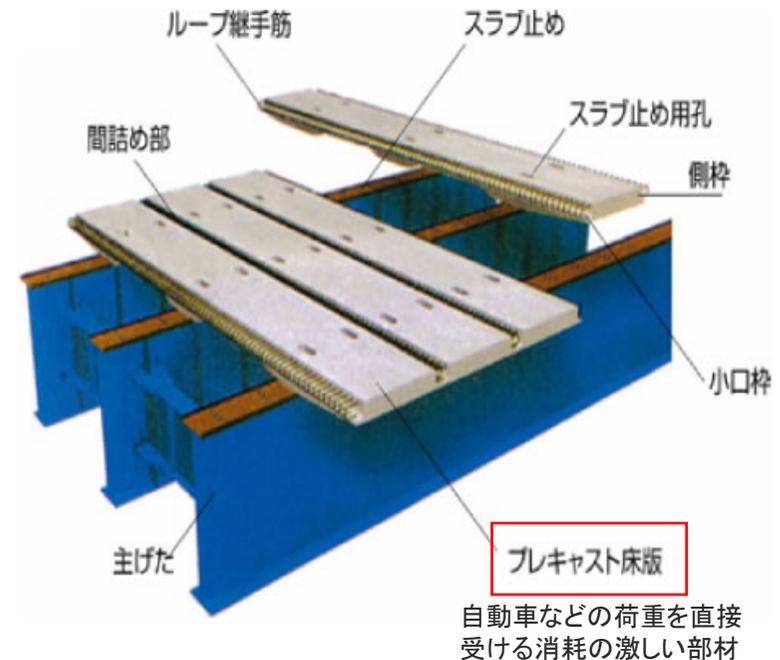
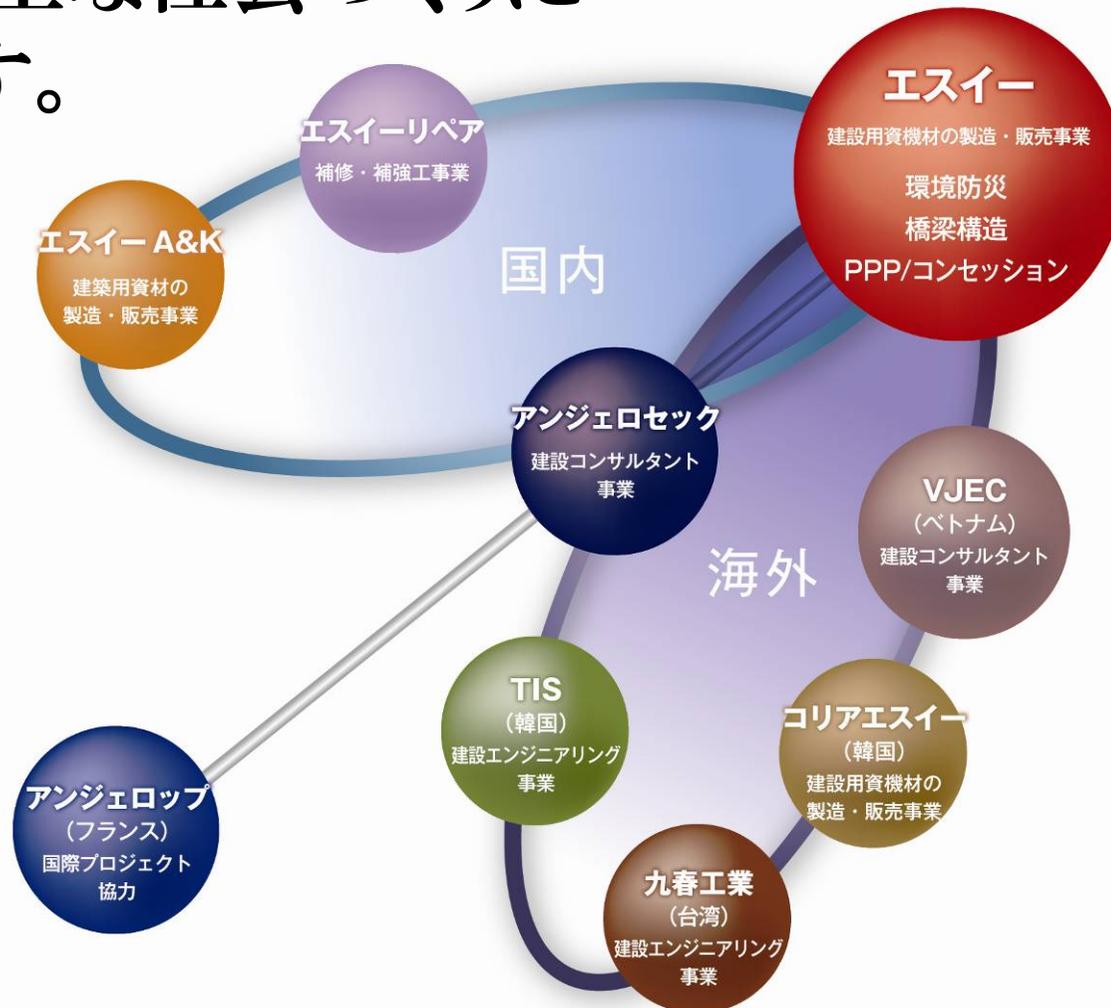


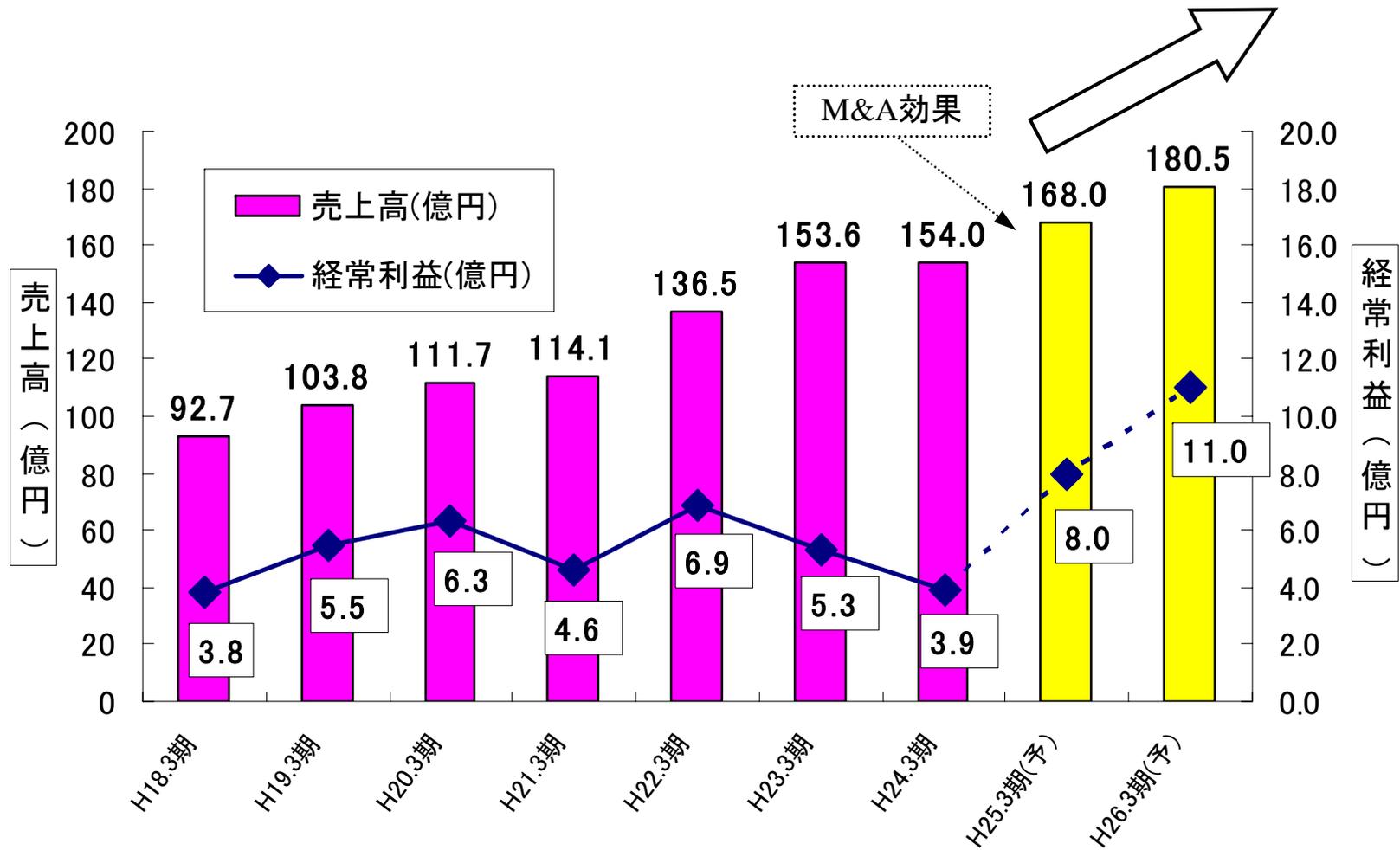
図: 社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会
ウェブサイトより

■エスイーグループ関連会社の構成

安心で安全な社会づくりに
貢献します。



SECグループ売上／利益計画



ご清聴ありがとうございました



将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがって、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

Globality Engineering Maker

 株式会社 エスイー